

社会福祉法人 関西中央福祉会
平成リハビリテーション専門学校

第3回 教育課程編成委員会 議事録

1. 開催日時 令和3年7月15日（火）18時00分～18時55分
2. 会議出席者
 - 樋笠 重和 （兵庫県理学療法士会 支部担当局長）
 - 玉井 由美子 （兵庫県言語聴覚士会 阪神南ブロック長）
 - 松本 憲作 （淀川平成病院 理学療法士）
 - 田山 大介 （西宮回生病院 作業療法士）
 - 井上 真一 （神戸平成病院 言語聴覚士）会議欠席者
 - 渡邊 康子 （兵庫県作業療法士会 理事）
3. 陪席者
 - 藤本 陽子 （副校長）
 - 松村 竜誠 （理学療法学科 学科長）
 - 佐平 安紀子 （作業療法学科 学科長）
 - 青木 崇 （言語聴覚療法学科 学科長）
 - 奥田 秀樹 （事務長）
4. 会議の場所
兵庫県西宮市津門西口町2-26 平成リハビリテーション専門学校内
Web 会議方式にて実施

5. 審議・議題事項

開催にあたり、各委員及び当校役職者の紹介を行う。

続いて今回の議長の推薦をはかったところ、議長を青木学科長、書記を奥田事務長で推薦することを決め議事審議に入る。

議題に入る前に、藤本副校長より今年度の入学者数と、国家試験合格率についての発表を行う。

議案1. 新型コロナウイルス感染症に伴う、2021年度前期課程における本校の対応
藤本副校長より各項目について説明を行う。

- ・今年4月開校から現在までの感染対策に併せた授業形態について
(オンライン授業と対面授業)
- ・今年度実施予定の臨床実習について

議案2. コロナ禍において新人職員を迎えて感じる例年との違いとそこから学校側に求める教育・指導について感じること

藤本副校長より各委員の方へ職場内での現状について伺う。

各委員より医療現場の職場内状況についての報告を行う。

- ・新人職員とのコミュニケーションに苦戦。
- ・臨床推論の不足見受けられる。
- ・ここ数年の若者の能動的な部分や礼節面に欠けるところが目立つ。
- ・患者様へのコミュニケーションが上手くとれていない場面がある。
- ・新人職員内での実習実施者と未実施者とが混在し、配慮を求められる。
- ・プリセプターを導入し指導を行う。
- ・安全管理意識が少ない傾向である。
- ・多職種連携についてまだ経験が浅いため、緊張感が高く情報収集力が弱い。

各委員より今後の対応などについての意見を伺う。

- ・まだ入職から3か月ほどなので、秋頃にかけて気が緩まないように注意が必要。
- ・県士会としてもこれから会として新しい活動が求められる時期になる。
- ・新人職員個々に合わせた指導方法が求められる。
- ・教育場面で自主的な情報収集活動や発言力を身に着ける教育が必要。

- ・いろいろな発想ができる環境作りを工夫。

各委員より意見を基に当校としての今後の方針を藤本副校長より説明。

- ・学内でのグループワークのより一層の実施。
- ・既存授業でのコミュニケーション論のより一層の活用を検討。

藤本副校長より次回委員会開催予定について説明を行う。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。